

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月6日 (火)

会場 日上市市民運動公園中央体育館

【女子の部】 第5日目 準決勝 Aコート 第2試合

チームA 常葉学園 静岡	97	{ 26 1Q 18 25 2Q 23 23 3Q 27 23 4Q 12 OT }	80	チームB 県立富岡 神奈川
----------------------------------	----	---	----	-----------------------------------

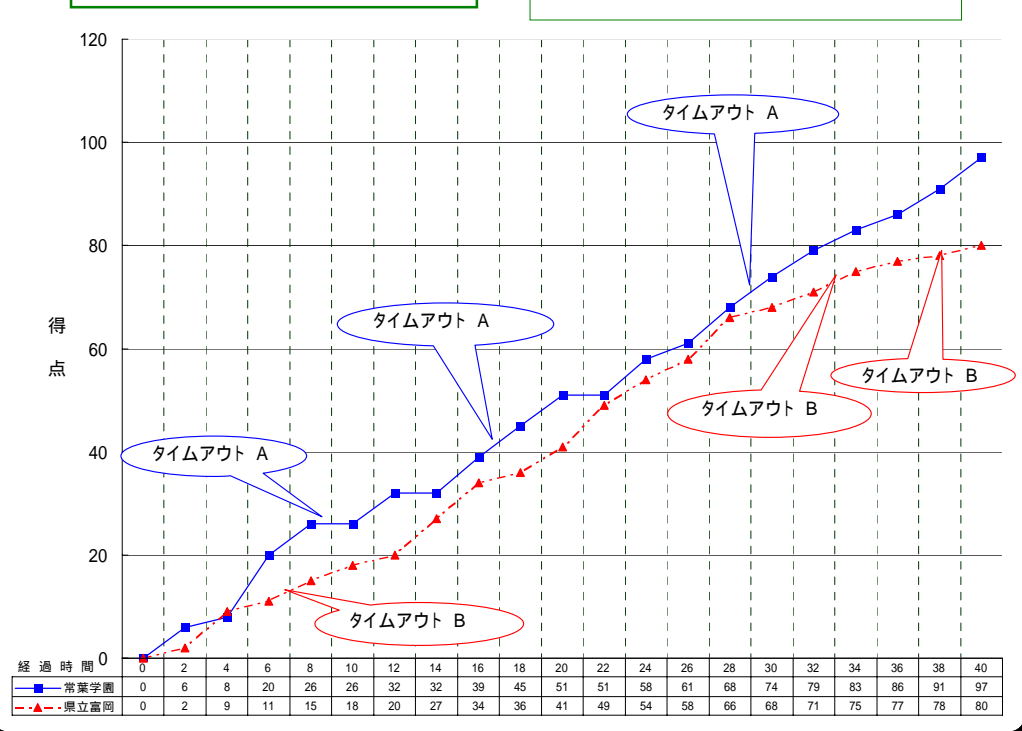
常葉学園

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	山田 未来	21	3	7	4	11	4	5	1	2	2	5	2	3	0	40
5	三浦 歩惟	13	1	4	5	6	0	0	3	2	4	3	3	11	0	40
6	櫻田 佳恵	41	9	14	6	13	2	5	1	1	4	0	1	4	1	40
7	安本亜沙美	16	0	0	7	15	2	2	4	3	4	4	2	0	0	40
8	青木 弘子	6	0	0	2	6	2	2	3	3	7	3	0	2	0	40
9	芦川 尚子															DNP
10	土屋 佐織															DNP
11	前畑亜土里															DNP
12	松永 南															DNP
13	太田 望															DNP
14	王 茜															DNP
15	赤池 史帆															DNP
コーチ	小前 宏史								0							
		97	13	25	24	51	10	14	12	11	21	15	8	20	1	200
		確率	52.0%		47.1%		71.4%			計	32					

県立富岡

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	松井 涼子	7	1	5	2	5	0	0	0	1	2	0	1	0	0	39
5	井浦 幸子	16	1	4	4	9	5	6	0	0	2	6	1	2	0	39
6	関根麻衣子	3	1	3	0	3	0	0	2	0	1	0	0	1	0	15
7	森本 由樹	20	1	1	6	19	5	6	3	0	1	1	2	1	3	38
8	萩原 歩	20	2	2	7	9	0	0	3	7	4	3	0	1	0	31
9	蒲谷 千恵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10	倉光栄利子	8	2	3	1	3	0	0	3	0	0	2	4	3	0	25
11	深見 沙代															DNP
12	四家 香利	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	1
13	杵鞭 喜子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1
14	陳 美智	4	0	0	1	2	2	2	1	1	1	2	0	0	1	9
15	中谷由貴子	2	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
コーチ	星澤 純一								0							
		80	8	18	22	52	12	14	14	9	14	15	10	8	4	200
		確率	44.4%		42.3%		85.7%			計	23					

2分毎による得点の推移



戦評

優勝候補同士の準決勝にふさわしい一点を争う好ゲームとなった。

第1P両校ともマンツーマンディフェンスでスタート。常葉は#4山田、#5三浦、#6櫻田が連続で得点を挙げ、6点リードで試合を有利に進める。常葉は富岡がリバウンドを支配するようになると、開始4分一時は逆転を許すが、#6櫻田がファールを受けながら3Pを決めると、再び流れを取り戻す。富岡は残り3分でディフェンスを1-3-1のゾーンディフェンスに変えるが、常葉は終始試合をリードして、8点差で第1Pを終了する。

第2P富岡は第1Pに引き続き、1-3-1のゾーンディフェンスでスタート。開始4分富岡#8萩原から#14陳に交代して流れを変えようとするが、常葉は#6櫻田が連続で3Pを4本決める活躍などで、更に点差を広げて第2Pを終了する。

第3Pは試合が激しく動き、点取り合戦となった。富岡が#7森本、#8萩原の活躍で同点に追いつくと、それぞれが交互に点数を挙げる一進一退の攻防となった。常葉はディフェンスを3-2のゾーンディフェンスにするなどして富岡の目先を変える工夫を見せ、点差を縮められながらも6点差で第3Pを終了する。

第4Pは速さと運動量に勝る常葉が徐々に点差を広げていく。富岡は2度のタイムアウトで流れを取り戻そうとするが、疲れが見えてきて、ラストパスをミスするなどして大切なシュートチャンスを逃してしまった。常葉はスタートの5人が一度も選手交代することなく走り続け、勝利をものにした。

主審	平川 孝彦	副審	吉岡 康元	記入者	山戸 剛
----	-------	----	-------	-----	------